



公益財団法人 がんの子どもを守る会
Children's Cancer Association of Japan
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
電話:03-5825-6311(代表)
<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索

 公益財団法人 がんの子どもを守る会







2013年度事業報告書

2013年4月1日~2014年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT

Apr.01,2013~ Mar.31,2014

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2013年度収支報告	6
 2013年度事業概況	
① 療養援助事業	11
② 相談事業	12
③ 治療研究事業	17
④ 総合支援施設運営事業	18
⑤ 小児がん・難病対策	19
⑥ 支部活動	20
⑦ 広報・啓発・募金活動 等	22
⑧ 国際活動	24
⑨ ボランティアコーディネート・研修会	26
⑩ 調査研究協力	26
⑪ 2013年度年次大会開催	27
⑫ 特別功労賞表彰式	27
⑬ 企業・団体からのご協力	28
 寄付・募金者一覧	29

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児家族が直面している困難・悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ

公益財団法人 がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔



公益財団法人がんの子どもを守る会は、1968年の設立以来小児がんの子どもを持つ家族のための相談・支援事業、治療研究への助成事業、小児がん経験者やきょうだい達への支援、更に小児がんに関する啓発などの事業を続けて参りました。また、21世紀に入り、新たに小児がんを含む難病治療中の家族のための宿泊・支援施設運営を事業に加え、小児がんと闘う患児家族のための事業を幅広く担い、成果を挙げてきております。しかしその一方で、近年の経済環境の悪化などの影響を受け、残念ながら数年前より連続して赤字運営の状況が続いておりましたことは、既に何回かご報告しました通りですが、そのような状況を建て直し、会の活動の持続的な発展を確かなものにするために、2011年度より財政や運営の仕組みの改善・強化を図って参りました。

その結果、2013年度には改善の成果が少しずつ実ってきたことに加え、新たな篤志の方々からの多額のご支援があり、お陰様で一般会計（管理会計ベース）の収支差をマイナス約3%までに圧縮することができました。数年振りに日差しの見える事業報告をまとめることが出来たことを、大変喜ばしく思っております。当会の活動の趣旨に賛同され、大きな支えとなって下さった方々に、心から感謝申し上げますと共に、厳しい環境の下で事業の着実な推進に努力を続けている事務局職員の皆さんの努力にも、感謝を意を表したいと思っております。

会の持続的な発展のために必須な、財政基盤の強化と事務局業務の効率化や改善を図り、長い間続けてきた事業を着実に推進すると同時に、時代の変化に伴い必要となってくる新たな活動を積極的に展開していきたいというのが、3年前の就任時からの私の基本的な方針であります。その一つとして2012年度の事業報告書では、小児がん経験者

の支援強化について触れましたが、その方向に沿って2013年度中に小児がん経験者支援の新たな動きが幾つか具体化致しました。

その一つが、高等学校他に就学する小児がん経験者を対象とし、2014年度から実施予定の「アフラック小児がん経過者・がん遺児奨学金」給付事業であります。会の公益目的事業に同事業を加えることについての認定を内閣府より受けるなどの準備が2013年度中に完了し、2014年度より当会を運営者・事務局として、同事業が開始されることになりました。

小児がん経験者支援に関するもう一つの動きとして期待されるのが、当会がこれまで支援してまいりました全国の小児がん経験者の会リーダーの集いがきっかけとなり、小児がん経験者の全国ネットワークを構築・充実させ、経験者の輪を大きく広げていこうという動きが具体化していることでもあります。当会としては、この活動が多く経験者を巻き込んだ経験者の発意による活動である点を高く評価し、参加者諸君の意思を尊重しつつ、適切な支援を行っていきたいと考えております。

2013年度の決算はようやく日が差してきたと申し上げましたが、それはひとえにご篤志の方々の特別なご支援に支えられた結果であります。当会の活動は、個人・企業・団体の皆様のご篤志に全面的に支えられており、現在の事業規模を維持しつつ、収支バランスのとれた運営を持続的なものとしていくことは、引き続き大きな課題であります。そのことを踏まえ、2014年度の事業計画・予算は、保守的な考え方で策定しており、結果として少なからぬ赤字を想定しております。

本年に引き続き、期中に収支の改善を図り明るい決算結果を実現するためには、理事会・事務局の一層の努力が必要なことは言うまでもありませんが、同時にご支援いただいている皆様の引き続きのご篤志に依らざるを得ません。

皆様におかれましては、当会の使命へのご理解を頂き、引き続きのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

当会の事業

- | | |
|--------------------------|--|
| 〈事業〉1 小児がんに関する知識の普及・啓発事業 | 5 小児がん・小児難病に関する宿泊施設運営事業 |
| 2 小児がんに関する調査・研究事業 | 6 小児がん経験者及びがん遺児（主たる生計維持者をがんにより失った遺児）への奨学金の給付事業 |
| 3 小児がんに関する相談事業 | 7 その他この法人の目的を達成するために必要な事業 |
| 4 小児がんに関する支援事業 | |



組織概要

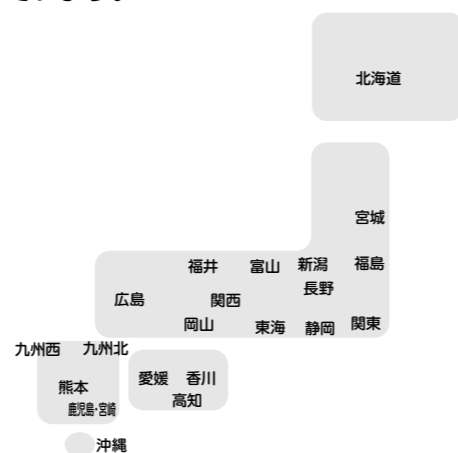
※2014年3月31日現在

名称	公益財団法人 がんの子どもを守る会
設立	1968年10月31日
設立趣旨	当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
主務官庁	内閣府
主たる事務所	浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
従たる事務所	亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553 大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
組織	理事長 山下 公輔 理事 11名、監事2名 評議員 12名 職員 20名 普通会員 2,504名 賛助会員249名（法人15社、個人234名）

支部 当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、鹿児島・宮崎、沖縄



役員名簿

理事長	山下 公輔 親/ブライスクォーターハウスコーポス株式会社 シニアアドバイザー	星 順隆 山王病院 小児科
副理事長	細谷 亮太 聖路加国際病院 小児総合医療センター長/当会囑託医	別所 文雄 杏林大学医学部 小児科
理事	近藤 博子 親/元当会ソーシャルワーカー	黒田 達夫 慶應義塾大学 医学部 小児外科 教授
橋都 浩平 株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役	元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授	花田 良二 埼玉県立小児医療センター 副院長
松井 秀文 NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク 理事長		前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科 教授
張 光陽 親/当会九州北支部 幹事		調査研究委員会
増子 孝徳 親/のぞみ法律事務所 弁護士		橋都 浩平 株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役
坪田 起久恵 親/当会福井支部 代表幹事		細谷 亮太 聖路加国際病院 小児総合医療センター長/当会囑託医
森下 さふみ 親/当会関西支部 幹事		星 順隆 山王病院 小児科
池田 小霧 親/すくすく(網膜芽細胞腫の子どもをもつ家族の会) 代表		岩田 敬治 当会最高相談役
石川 幹雄 当会事務局長		黒田 英三 当会相談役
監事		山下 公輔 当会理事長
高橋 和子 親/当会九州北支部 代表幹事		山下 公輔 当会理事長
三川 勝夫 親/三川会計事務所 代表		小原 明 東邦大学医療センター 大森病院 院長
評議員		小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長
河 敬世 日本赤十字社近畿ブロック血液センター 所長		黒田 達夫 慶應義塾大学 医学部 小児外科 教授
深澤 重幸 親/コトブキシーティング株式会社 代表取締役社長		陳 基明 日本大学付属板橋病院 小児科 外来医長
西田 知佳子 元 聖路加国際病院 医療社会事業課 ソーシャルワーカー		菱木 知郎 千葉県こども病院 小児外科 主任医長
平野 朋美 埼玉県立小児医療センター 医療相談室 ソーシャルワーカー		丸 光恵 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 教授
平澤 一郎 小児がん経験者/長岡こども・医療介護専門学校		〈専門委員〉
幸島 静枝 親/当会会員		野崎 美和子 獨協医科大学越谷病院 放射線科 教授
稲田 浩子 久留米大学病院 小児科		逸見 仁道 東邦大学医学部 分子生物学研究室 教授
中村 美智子 小児がん経験者		中澤 温子 国立成育医療研究センター 病理診断部 部長
鈴木 中人 親/当会東海支部 代表幹事		海外留学助成委員会
隈部 俊宏 北里大学病院 脳神経外科 教授		河 敬世 日本赤十字社近畿ブロック血液センター 所長
田中 徹 親/日本経営システム株式会社 取締役総務部長		岡村 純 国立病院機構九州がんセンター 臨床研究センター 顧問
本橋 由紀 株式会社毎日新聞社 東京本社 編集編成局地方部長		小田 慈 岡山大学大学院 小児血液・腫瘍科/保健学研究科 教授
療養援助委員会		駒田 美弘 三重大学医学部 小児科 教授
西村 昂三 元 聖路加国際病院 小児科		中畑 龍俊 京都大学ips細胞研究所 副所長
横山 穰太郎 元 慶應義塾大学医学部 小児外科		石川 幹雄 当会事務局長
		名誉顧問
		日野原重明 聖路加国際病院 名誉院長
		市川平三郎 国立がん研究センター中央病院 名誉院長
		柳田 邦男 作家



会の歴史

- 1962 設立趣意書作成
- 1966 NHKカメラリポートで紹介
- 1967 「がんの子供を助ける親の会」準備会
- 1968 2.25 「親の会」設立総会
10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可
11.18 治療研究委員会発足
12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
- 1969 小児がん全国登録開始
- 1970 関西支部設立総会
小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
- 1971 陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現
- 1972 九州支部設立総会
北海道支部設立総会
療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
- 1973 映画企画委員会発足
専任ケースワーカー設置
- 1974 48年度小児がん映画完成公開
静岡支部設立総会
全国登録委員会発足
- 1975 愛知支部設立総会
49年度小児がん映画完成公開
埼玉支部設立総会
パンフレット「こどものがん」刊行
- 1976 特定公益増進法人の認定
- 1978 本会に嘱託医を設置
創立10周年記念講演と映画の会
- 1979 長野支部設立総会
創立10周年記念・国際児童がん国際シンポジウム
- 1981 新潟支部設立総会
- 1984 日本小児がん研究会発足
- 1985 第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
- 1986 竹中相談役・顧問に藍綬褒章
- 1989 創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
- 1991 小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行
宮城支部設立総会
- 1993 愛媛支部設立総会
小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成
- 1994 小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行

- 1995 宿泊施設「あかつきハウス」開設
岡山支部設立総会
- 1996 東京支部HOPE設立総会
学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
- 1997 国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
- 1998 創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
- 1999 九州支部、北・西・南の3支部に分割
清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
- 2000 「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行
岩田理事長に藍綬褒章
- 2001 「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
- 2002 「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行
愛知支部が東海支部となる
広島支部設立総会
- 2003 九州南支部が熊本支部となる
鹿児島支部設立総会
埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
- 2004 福井支部設立総会
香川支部設立総会
沖縄支部設立総会
「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
- 2006 小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立
「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
- 2007 ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京）
富山支部設立総会
- 2008 創立40周年記念事業がんと子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉）
第1回小児がん経験者自立支援助成金
- 2009 「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成
高知支部設立総会
- 2010 「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行
福島支部設立総会
- 2011 東日本大震災緊急療養援助実施
- 2012 公益財団法人移行認定
鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
- 2013 「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定
岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与



2013年度収支報告 (2013年4月1日～2014年3月31日)



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	148,148	0	0	148,148
普通預金利息	45,163	0	0	45,163
定期預金利息	102,985	0	0	102,985
受取寄付金	210,595,220	48,763,155	△1,160,700	258,197,675
特定寄付金	5,721,360	0	0	5,721,360
一般寄付金	48,763,156	48,763,155	0	97,526,311
受取寄付金振替額	156,110,704	0	△1,160,700	154,950,004
受取補助金等	9,895,552	0	0	9,895,552
受取助成金	8,178,818	0	0	8,178,818
受取補助金等振替額	1,716,734	0	0	1,716,734
受託料	1,416,667	0	0	1,416,667
学会業務受託料	416,667	0	0	416,667
調査研究受託料	1,000,000	0	0	1,000,000
受取利用料	9,743,600	0	0	9,743,600
施設利用料	8,813,500	0	0	8,813,500
リネン利用料	930,100	0	0	930,100
雑収益	3,200,672	0	0	3,200,672
雑収益	3,200,672	0	0	3,200,672
経常収益計	234,999,859	48,763,155	△1,160,700	282,602,314
(2) 経常費用				
事業費	261,190,658		△1,160,700	260,029,958
人件費	80,969,980		0	80,969,980
法定福利費	10,312,619		0	10,312,619
給与	67,440,353		0	67,440,353
福利厚生費	106,428		0	106,428
退職給付費用	3,110,580		0	3,110,580
助成費	26,745,000		0	26,745,000
療養助成費	15,445,000		0	15,445,000
治療研究助成費	7,300,000		0	7,300,000
調査研究助成費	4,000,000		0	4,000,000
活動費	121,440,693		△1,160,700	120,279,993
会議費	1,013,562		0	1,013,562
旅費交通費	9,698,960		0	9,698,960
通信運搬費	4,865,507		0	4,865,507
消耗品費	1,932,774		0	1,932,774
修繕費	1,815,699		0	1,815,699
印刷製本費	3,090,234		0	3,090,234
光熱水料費	13,638,640		0	13,638,640
保険料	1,681,642		0	1,681,642
諸謝金	1,467,695		0	1,467,695
業務委託費	37,207,043		0	37,207,043
広報費	3,331,002		0	3,331,002
支援費	686,890		0	686,890
図書資料費	348,559		0	348,559
保健衛生費	4,029,065		0	4,029,065
ゴールドリボン制作費	2,260,650		0	2,260,650
宿泊施設運営費	2,050,800		△1,160,700	890,100
租税公課	9,499,159		0	9,499,159
リネン賃借料	781,568		0	781,568
事業協力費	1,770,735		0	1,770,735
会場費	2,619,445		0	2,619,445
雑費	1,646,071		0	1,646,071
保守料	11,651,978		0	11,651,978
リース料	2,530,736		0	2,530,736
植栽管理費	849,975		0	849,975
借地料	845,664		0	845,664
支払報酬	126,640		0	126,640
減価償却費	32,034,985		0	32,034,985
建物減価償却額	26,699,921		0	26,699,921
建物附属設備減価償却額	2,791,687		0	2,791,687
ソフトウェア減価償却額	497,175		0	497,175
什器備品減価償却額	2,046,202		0	2,046,202

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引消去	合計
管理費		34,952,066	0	34,952,066
人件費		22,723,280	0	22,723,280
給与		17,739,093	0	17,739,093
法定福利費		2,877,544	0	2,877,544
福利厚生費		32,923	0	32,923
退職給付費用		2,073,720	0	2,073,720
活動費		10,348,332	0	10,348,332
会議費		1,050	0	1,050
旅費交通費		1,062,970	0	1,062,970
通信運搬費		1,636,791	0	1,636,791
消耗品費		331,097	0	331,097
印刷製本費		1,187,535	0	1,187,535
図書資料費		47,100	0	47,100
保守料		514,080	0	514,080
リース料		2,534,846	0	2,534,846
支払報酬		1,981,420	0	1,981,420
租税公課		398,200	0	398,200
雑費		653,243	0	653,243
減価償却費		1,880,454	0	1,880,454
ソフトウェア減価償却額		554,750	0	554,750
什器備品減価償却額		1,325,704	0	1,325,704
経常費用計	261,190,658	34,952,066	△1,160,700	294,982,024
評価損益等調整前当期経常増減額	△26,190,799	13,811,089	0	△12,379,710
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△26,190,799	13,811,089	0	△12,379,710
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
什器備品除却損	168,447	0	0	168,447
経常外費用計	168,447	0	0	168,447
当期経常外増減額	△168,447	0	0	△168,447
当期一般正味財産増減額	△26,359,246	13,811,089	0	△12,548,157
一般正味財産期首残高	686,909,508	△69,030,227	0	617,879,281
一般正味財産期末残高	660,550,262	△55,219,138	0	605,331,124
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	223,890,691	0	△1,160,700	222,729,991
指定寄付金	223,890,691	0	△1,160,700	222,729,991
三重ファミリールーム指定寄付金	2,391,400	0	△1,160,700	1,230,700
海外留学助成制度指定寄付金	4,000,000	0	0	4,000,000
施設運営指定寄付金	114,700,045	0	0	114,700,045
国際交流指定寄付金	2,300,000	0	0	2,300,000
がん遺児奨学金指定寄付金	100,499,246	0	0	100,499,246
基本財産受取利息	972,353	0	0	972,353
一般正味財産への振替額	△157,827,438	0	1,160,700	△156,666,738
指定寄付金	△156,110,704	0	1,160,700	△154,950,004
受取補助金等	△1,716,734	0	0	△1,716,734
当期指定正味財産増減額	67,035,606	0	0	67,035,606
指定正味財産期首残高	1,902,589,418	0	0	1,902,589,418
指定正味財産期末残高	1,969,625,024	0	0	1,969,625,024
III 正味財産期末残高	2,630,175,286	△55,219,138	0	2,574,956,148



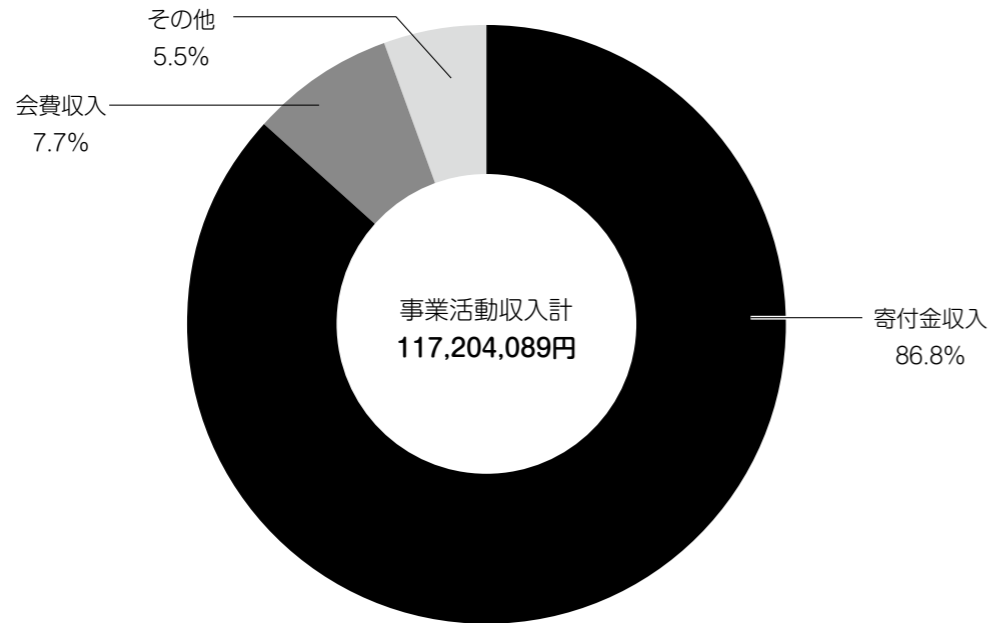
正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

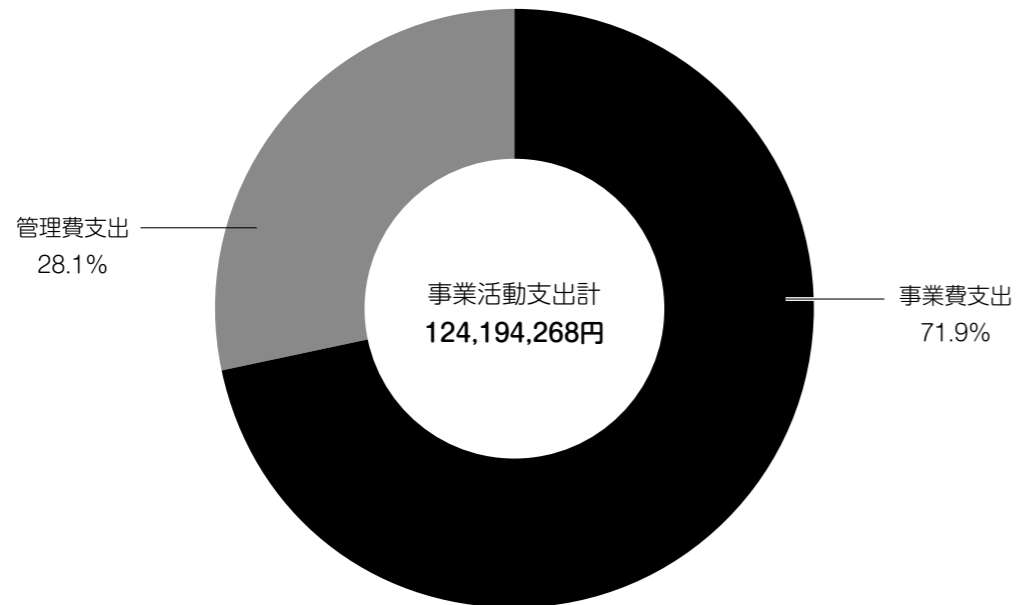
科目	一般会計	AFLACヘアレンツ ハウス特別会計	三重ファミリー ルーム特別会計	メイズ財団 小児がん骨髄移植 基金特別会計	小児がん経験者 がん遺児奨学金 特別会計	小 計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
財産運用益	122,031	11,279	3,060	1,091	10,687	148,148	0	148,148
普通預金利息	19,046	11,279	3,060	1,091	10,687	45,163	0	45,163
定期預金利息	102,985	0	0	0	0	102,985	0	102,985
受取寄付金	110,708,371	142,374,672	1,230,700	0	5,044,632	259,358,375	△ 1,160,700	258,197,675
特定寄付金	5,721,360	0	0	0	0	5,721,360	0	5,721,360
一般寄付金	97,526,311	0	0	0	0	97,526,311	0	97,526,311
受取寄付金振替額	7,460,700	142,374,672	1,230,700	0	5,044,632	156,110,704	△ 1,160,700	154,950,004
受取補助金等	2,178,818	0	1,716,734	6,000,000	0	9,895,552	0	9,895,552
受取助成金	2,178,818	0	0	6,000,000	0	8,178,818	0	8,178,818
受取補助金等振替額	0	0	1,716,734	0	0	1,716,734	0	1,716,734
受託料	1,416,667	0	0	0	0	1,416,667	0	1,416,667
学会業務受託料	416,667	0	0	0	0	416,667	0	416,667
調査研究受託料	1,000,000	0	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000
受取利用料	358,000	8,849,600	536,000	0	0	9,743,600	0	9,743,600
施設利用料	358,000	7,919,500	536,000	0	0	8,813,500	0	8,813,500
リネン利用料	0	930,100	0	0	0	930,100	0	930,100
雑収益	2,420,202	780,470	0	0	0	3,200,672	0	3,200,672
雑収益	2,420,202	780,470	0	0	0	3,200,672	0	3,200,672
経常収益計	117,204,089	152,016,021	3,486,494	6,001,091	5,055,319	283,763,014	△ 1,160,700	282,602,314
(2) 経常費用								
事業費	89,242,202	159,176,923	3,516,214	4,200,000	5,055,319	261,190,658	△ 1,160,700	260,029,958
人件費	35,979,732	40,943,016	0	0	4,047,232	80,969,980	0	80,969,980
法定福利費	4,502,886	5,281,833	0	0	527,900	10,312,619	0	10,312,619
給与	28,359,423	35,561,598	0	0	3,519,332	67,440,353	0	67,440,353
福利厚生費	6,843	99,585	0	0	0	106,428	0	106,428
退職給付費用	3,110,580	0	0	0	0	3,110,580	0	3,110,580
助成費	22,545,000	0	0	4,200,000	0	26,745,000	0	26,745,000
療養助成費	11,245,000	0	0	4,200,000	0	15,445,000	0	15,445,000
治療研究助成費	7,300,000	0	0	0	0	7,300,000	0	7,300,000
調査研究助成費	4,000,000	0	0	0	0	4,000,000	0	4,000,000
活動費	30,491,223	88,141,903	1,799,480	0	1,008,087	121,440,693	△ 1,160,700	120,279,993
会議費	997,427	16,135	0	0	0	1,013,562	0	1,013,562
旅費交通費	9,154,500	537,460	7,000	0	0	9,698,960	0	9,698,960
通信運搬費	2,341,686	2,304,569	68,695	0	150,557	4,865,507	0	4,865,507
消耗品費	717,511	1,154,934	60,329	0	0	1,932,774	0	1,932,774
修繕費	0	1,815,699	0	0	0	1,815,699	0	1,815,699
印刷製本費	2,037,360	475,374	0	0	577,500	3,090,234	0	3,090,234
光熱水料費	0	13,145,097	493,543	0	0	13,638,640	0	13,638,640
保険料	98,134	1,577,658	5,850	0	0	1,681,642	0	1,681,642
諸謝金	1,467,695	0	0	0	0	1,467,695	0	1,467,695
業務委託費	0	37,143,275	63,768	0	0	37,207,043	0	37,207,043
広報費	3,331,002	0	0	0	0	3,331,002	0	3,331,002
支援費	686,890	0	0	0	0	686,890	0	686,890
図書資料費	60,855	277,729	0	0	9,975	348,559	0	348,559
保健衛生費	0	3,929,065	100,000	0	0	4,029,065	0	4,029,065
ゴールドリボン制作費	2,260,650	0	0	0	0	2,260,650	0	2,260,650
宿泊施設運営費	2,050,800	0	0	0	0	2,050,800	△ 1,160,700	890,100
租税公課	25,659	9,473,500	0	0	0	9,499,159	0	9,499,159
リネン賃借料	0	781,568	0	0	0	781,568	0	781,568
事業協力費	1,770,735	0	0	0	0	1,770,735	0	1,770,735
会場費	2,619,445	0	0	0	0	2,619,445	0	2,619,445
雑費	870,874	602,226	29,556	0	143,415	1,646,071	0	1,646,071
保守料	0	11,526,903	125,075	0	0	11,651,978	0	11,651,978
リース料	0	2,530,736	0	0	0	2,530,736	0	2,530,736
植栽管理費	0	849,975	0	0	0	849,975	0	849,975
借地料	0	0	845,664	0	0	845,664	0	845,664
支払報酬	0	0	0	0	126,640	126,640	0	126,640
減価償却費	226,247	30,092,004	1,716,734	0	0	32,034,985	0	32,034,985
建物減価償却額	100,247	24,882,940	1,716,734	0	0	26,699,921	0	26,699,921
建物附属設備減価償却額	0	2,791,687	0	0	0	2,791,687	0	2,791,687
ソフトウェア減価償却額	126,000	371,175	0	0	0	497,175	0	497,175
什器備品減価償却額	0	2,046,202	0	0	0	2,046,202	0	2,046,202

科目	一般会計	AFLACヘアレンツ ハウス特別会計	三重ファミリー ルーム特別会計	メイズ財団 小児がん骨髄移植 基金特別会計	小児がん経験者 がん遺児奨学金 特別会計	小 計	内部取引消去	合 計
管理費	34,952,066	0	0	0	0	34,952,066	0	34,952,066
人件費	22,723,280	0	0	0	0	22,723,280	0	22,723,280
給与	17,739,093	0	0	0	0	17,739,093	0	17,739,093
法定福利費	2,877,544	0	0	0	0	2,877,544	0	2,877,544
福利厚生費	32,923	0	0	0	0	32,923	0	32,923
退職給付費用	2,073,720	0	0	0	0	2,073,720	0	2,073,720
活動費	10,348,332	0	0	0	0	10,348,332	0	10,348,332
会議費	1,050	0	0	0	0	1,050	0	1,050
旅費交通費	1,062,970	0	0	0	0	1,062,970	0	1,062,970
通信運搬費	1,636,791	0	0	0	0	1,636,791	0	1,636,791
消耗品費	331,097	0	0	0	0	331,097	0	331,097
印刷製本費	1,187,535	0	0	0	0	1,187,535	0	1,187,535
図書資料費	47,100	0	0	0	0	47,100	0	47,100
保守料	514,080	0	0	0	0	514,080	0	514,080
リース料	2,534,846	0	0	0	0	2,534,846	0	2,534,846
支払報酬	1,981,420	0	0	0	0	1,981,420	0	1,981,420
租税公課	398,200	0	0	0	0	398,200	0	398,200
雑費	653,243	0	0	0	0	653,243	0	653,243
減価償却費	1,880,454	0	0	0	0	1,880,454	0	1,880,454
ソフトウェア減価償却額	554,750	0	0	0	0	554,750	0	554,750
什器備品減価償却額	1,325,704	0	0	0	0	1,325,704	0	1,325,704
経常費用計	124,194,268	159,176,923	3,516,214	4,200,000	5,055,319	296,142,724	△ 1,160,700	294,982,024
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 6,990,179	△ 7,160,902	△ 29,720	1,801,091	0	△ 12,379,710	0	△ 12,379,710
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 6,990,179	△ 7,160,902	△ 29,720	1,801,091	0	△ 12,379,710	0	△ 12,379,710
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
什器備品除却損	0	168,447	0	0	0	168,447	0	168,447
経常外費用計	0	168,447	0	0	0	168,447	0	168,447
当期経常外増減額	0	△ 168,447	0	0	0	△ 168,447	0	△ 168,447
当期一般正味財産増減額	△ 6,990,179	△ 7,329,349	△ 29,720	1,801,091	0	△ 12,548,157	0	△ 12,548,157
一般正味財産期首残高	437,404,570	161,906,380	15,496,387	3,071,944	0	617,879,281	0	617,879,281
一般正味財産期末残高	430,414,391	154,577,031	15,466,667	4,873,035	0	605,331,124	0	605,331,124
II 指定正味財産増減の部								
受取寄付金	7,460,700	114,700,045	1,230,700	0	100,499,246	223,890,691	△ 1,160,700	222,729,991
指定寄付金	7,460,700	114,700,045	1,230,700	0	100,499,246	223,890,691	△ 1,160,700	222,729,991
三重ファミリー ルーム指定寄付金	1,160,700	0	1,230,700	0	0	2,391,400	△ 1,160,700	1,230,700
海外留学助成制度指定寄付金	4,000,000	0	0	0	0	4,000,000	0	4,000,000
施設運営指定寄付金	0	114,700,045	0	0	0	114,700,045	0	114,700,045
国際交流指定寄付金	2,300,000	0	0	0	0	2,300,000	0	2,300,000
がん遺児奨学金指定寄付金	0	0	0	0	100,499,246	100,499,246	0	100,499,246
基本財産受取利息	972,353	0	0	0	0	972,353	0	972,353
一般正味財産への振替額	△ 7,460,700	△ 142,374,672	△ 2,947,434	0	△ 5,044,632	△ 157,827,438	1,160,700	△ 156,666,738
指定寄付金	△ 7,460,700	△ 142,374,672	△ 1,230,700	0	△ 5,044,632	△ 156,110,704	1,160,700	△ 154,950,004
受取補助金等	0	0	△ 1,716,734	0	0	△ 1,716,734	0	△ 1,716,734
当期指定正味財産増減額	972,353	△ 27,674,627	△ 1,716,734	0	95,454,614	67,035,606	0	67,035,606
指定正味財産期首残高	1,338,351	1,831,679,797	25,415,778	0	44,155,492	1,902,589,418	0	1,902,589,418
指定正味財産期末残高	2,310,704	1,804,005,170	23,699,044	0	139,610,106	1,969,625,024	0	1,969,625,024
III 正味財産期末残高	432,725,095	1,958,582,201	39,165,711	4,873,035	139,610,106	2,574,956,148	0	2,574,956,148

収入



支出



1 療養援助事業

療養助成事業は、患児が等しく医療が受けられること、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的としています。療養助成には、「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類があります。それぞれ助成対象者、対象事項は以下の通りです。

■一般療養助成

- 対象者**
- 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
 - 給与所得者：「課税される所得金額（課税所得）」が100万円以下の方／自営業の方：「課税される所得金額」に「専従者給与（控除）額の合計額」及び「青色申告特別控除額」を加算した金額が100万円以下の方

助成対象事項 療養のために必要な諸経費全般

助成金額 3万円（1人1回限りの助成）

■特別療養助成

- 対象者** 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
- 助成対象事項**
- 入院療養のために必要な諸経費
 - ・ 入院中の患児の面会にかかる費用（宿泊施設等利用の際の滞在費・付添費）
 - ・ 病院と自宅が片道約150km以上離れている場合の親子1往復分の交通費
 - ・ 患児の補装具作成のためにかかった経費
 - ・ 闘病に伴って必要となったきょうだい（未就学年齢）の保育料
 - ・ 造血幹細胞移植など、主治医が患児の治療上必要と認めたものに対してかかった経費（但し、健康保険の対象とならない薬剤や代替療法等にかかる経費は原則対象外）

助成対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

審査 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、助成内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

	一般療養助成	特別療養助成	骨髄移植加算
申請件数	81件 (うち19件は2012年度決定分)	275件	102件
助成件数	81件 (うち19件は2012年度決定分)	264件	102件
総助成額	2,810,000円 (うち950,000円は2012年度決定分)	8,435,000円	4,200,000円
備考	助成金額 2013年度一律30,000円 2012年度一律50,000円	平均助成金額 31,950円	平均助成金額 41,176円

一般療養助成及び特別療養助成は、大原小児がん基金、一般財団法人凸版印刷三幸会、日本労働組合総連合会「愛のカンパ」大隅百合子基金、NPO法人 酒は未来を救う会、有限会社 吉半からの寄付をいただきました。骨髄移植加算については一般財団法人 日本メイスン財団からの寄付により運営されました。



2 相談事業

(1) 小児がん相談事業

日本では年間約2,000人の子どもたちが、あらたに小児がんと診断されています。当会が設立された当時は不治の病とされていましたが、現在は医療技術の進歩により、小児がん全体の7割から8割が治るようになってきました。一方、未だ年間500人ほどの子どもが亡くなる厳しい現状もあり、小児がんは幼い命を脅かす病気の筆頭であることに変わりはありません。

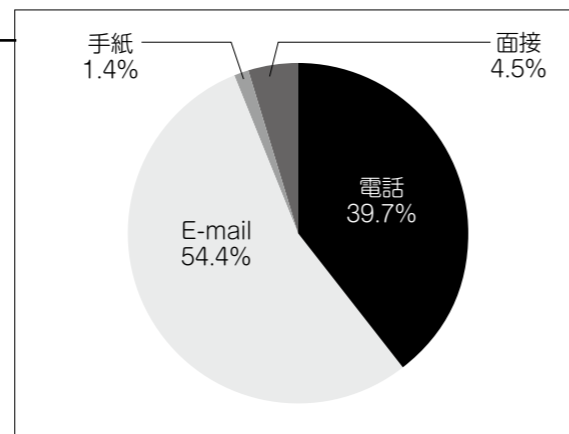
患児家族は、数ヶ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。くわえて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児家族に対して、闘病中はもちろん、闘病を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続したサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーを設置し、以来40年にわたりご相談を受けてきています。本年度は、東京と大阪の事務所に常駐するソーシャルワーカーが6名体制で、下記のような相談に応じました。

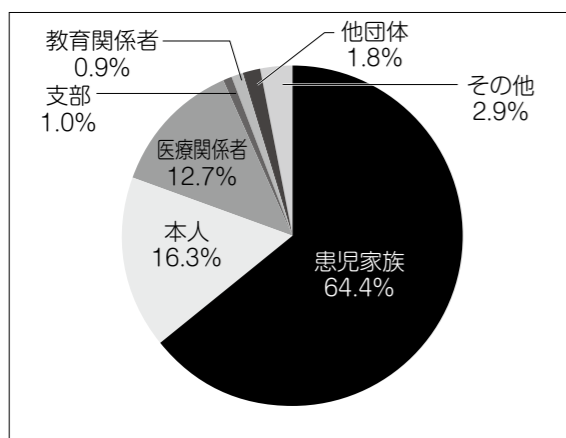
1. 相談方法

(単位：件)

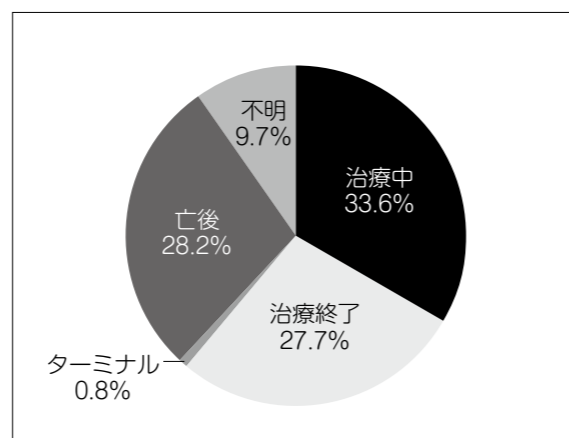
電話	1,338
E-mail	1,835
手紙	46
面接	151
計	3,370



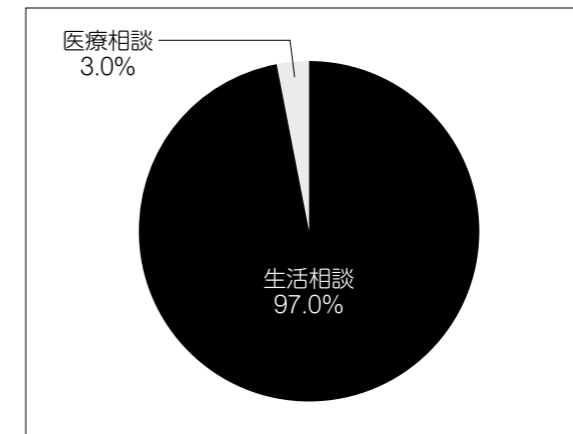
2. 相談者



3. 相談時期

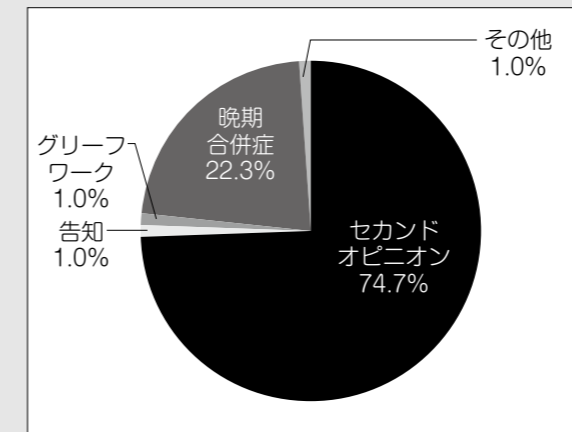


4. 相談内容



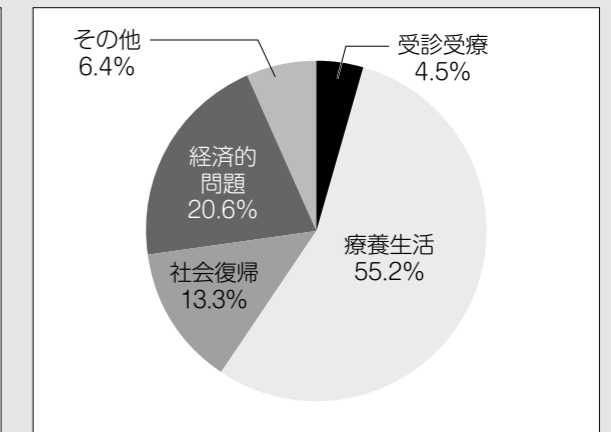
■医療相談

(セカンドオピニオン、グリーフワーク、晩期合併症に関すること)



■生活相談

(受診受療、療養生活、社会復帰、経済的問題に関すること)



(2) 相談会の開催

患児家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

個別相談会

年月日	内容	相談医	会場
2013. 7.16	小児外科	黒田 達夫 先生 慶應義塾大学病院 小児外科	東京(本部)
11.14	小児がんに関すること全般	細谷 亮太 先生 囃託医/聖路加国際病院 小児科	大阪
2014. 1.24	脳腫瘍	柳澤 隆昭 先生 埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター 脳脊髄腫瘍科	東京(本部)
2.13	小児がんに関すること全般	細谷 亮太 先生 囃託医/聖路加国際病院 小児科	東京(本部)
3.11	小児がんに関すること全般	前田 美穂 先生 日本医科大学付属病院 小児科	東京(本部)



(3) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、東京、大阪両事務所にて交流会を年9回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かった方、というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカーの司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しました。

■サポートグループ

本年度は春に開催いたしました。グループの開催前に参加者との個別の事前面接を行ったうえで、ソーシャルワーカーが同席し、5名の同じメンバーで2013年5月22日から6月26日までの毎週1回、原則90分計6回の集まりを持ち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。6回の集まりの後、再び参加者と個別に事後面接を行いました。

■サポートグループ同窓会

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたり同窓会と称した集まりをもっています。本年度は、春に開催した半年後の同窓会を行いました。

(4) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会リーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2001年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

本年度は2013年10月26日から27日の2日間にわたり大阪市内にて開催し、全国から11グループ18名が参加しました。府県を越えて選出された幹事4名が企画・運営を行いました。1日目は自己紹介に続き、所属する小児がん経験者の会についての紹介。2日目は今後この「リーダーの集い」をどのように発展させていくか意見が出されました。次年度に向けて経験者の会に属していない人達も集えるような全国規模のプログラムを検討していくことが確認されました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は6団体に計12万円の活動費の支援を行いました。

③Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー) / WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー)」の2013年6月9日に開催された総会及び9月8日、12月8日、2014年2月9日開催された定例会に当会ソーシャルワーカーが参加し、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」について、運営の助言や参加者の支援を行いました。

④スマートムンストーンキャンプ

2013年7月27日から29日まで、山梨県北杜市清里のキープ自然学校にて、第17回スマートムンストーンキャンプ(SMS)を開催いたしました。SMSは告知をされて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。2011年からは、キャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くしていきながらも、新しい仲間を迎えられるよう運営スタッフ主体のキャンプから「小児がん経験者が主体となって運営するキャンプ」を目指し運営形態を変え、昨年度からは当会の事業として、企画運営はボランティアを中心とした実行運営グループが行うことになりました。今年は参加者28名、ボランティア18名、キャンプリーダーの稲田浩子先生(久留米大学小児科)と地域ボランティア3名を含む実行運営グループ6名、顧問である石本浩市先生(あけぼの小児クリニック)、細谷亮太先生(聖路加国際病院小児科)の54名で開催されました。尚、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

(5) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を行う場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

17回目となる今回は、2013年6月9日、飯田橋レインボービルを会場に午前・午後の2部構成で実施しました。新しく立ち上げられた2つの会の参加もあり、全国から20団体32名が集う会となりました。

午前は、当会副理事長の近藤博子より「親の会連絡会のあゆみ」と題した講演において、親の会発足の萌芽期の話、その後各地に発足した親の会の間でさまざまな情報共有がされてきた経緯や現在までのあゆみを振り返り、親の会の活動の原点や意義、役割を再確認しました。その後4つのグループに分かれてのグループ討論では、参加者の自己紹介の後、各グループで「会の活動状況」や「運営上の悩み」等についての意見や情報交換が行われ、全体でもその内容が報告・共有されました。

午後は、当会の平成25年度年次大会のプログラム(27ページ参照)に合流していただき、行政における小児がん対策、小児慢性特定疾患治療研究事業対策、難病対策の側面から小児がん患児家族に対する



切れめない支援を考えることをテーマにした講演会と、その後のグループディスカッションにて積極的に発言していただきました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は、18団体に計47万5千円の活動費の支援を行いました。

(6) きょうだいの支援

①富士山にアタック!! 2013

小児がんの子どものきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないため、当会では2001年より毎日新聞社の支援を受けて小児がん患児のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。12回目となる本年度は、7月27日から29日の日程で参加者12名に、ボランティア、医師及び当会職員を含む合計31名の参加でした。本年度のキャンプは、不安定な天候も影響し登頂こそかないませんでしたが、富士山が世界遺産として認定され注目を浴びた最初の夏でもあり、思い出深い3日間となりました。2008年より開催している「きょうだいのお話会」を本年も開催し、貴重な時間を過ごすことができました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社 スタイリングライフ・ホールディングス プラザスタイルカンパニー、コールマンジャパン株式会社、MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN、株式会社ニッセン、個人の方々

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として富士山キャンプ参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものきょうだいたちが中心となって企画・運営をし、「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ（天道虫）が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子どものきょうだい同士が、こころにとめている想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、10月27日の親睦会と3月30日の交流会の計2回を開催し、充実した時間を過ごしました。

3 治療研究事業

(1) 治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治療、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、以下の15件（助成総額7,300,000円）を助成いたしました。助成金の一部についてはロート製薬株式会社からも基金からのご寄付も活用させていただきました。

〈2013年度 治療研究助成一覧〉

(助成期間：2013年10月1日～2014年9月30日)

氏名(敬称略:順不同)	所属	研究名称
佐藤 智信	北海道大学医学部 小児科	ユビキチンリガーゼTRIM45による小児がん細胞増殖抑制機構の解明
家原 知子	京都府立医科大学 小児科学教室	初診時血清診断による、乳児神経芽腫の無治療経過観察研究
小林 京子	自治医科大学看護学部 小児看護学	白血病患児と家族の療養生活支援ガイド作成とその効果に関する研究
上別府圭子	東京大学大学院医学系研究科 精神衛生学	患者・家族の視点を小児がん臨床研究へ導入するために — QOL研究センターの構築 —
下崎 真吾	金沢大学大学院医学系研究科 整形外科	骨肉腫に対する分子標的薬を用いた新しい治療法の検討
大池 真樹	宮城大学看護学部 次世代育成看護学分野	小児がん経験者の病気体験の受けとめ・意味づけとセルフケア獲得に向けた看護支援
綿谷 崇史	静岡県立こども病院 脳神経外科	ES細胞および患者由来ips細胞を用いた小児悪性脳腫瘍モデルの作成
尾崎 敏文	岡山大学病院 整形外科	限局性ユーイング肉腫に対するトポテカン併用試験治療群と標準治療群の治療期間短縮によるランダム化第II相試験
西村 範行	神戸大学大学院医学研究科 小児科学分野・疫学分野	がん幹細胞に注目した神経芽腫の新規治療法に関する研究
田中 祐吉	神奈川県立こども医療センター 臨床研究所・病理診断科	小児固形腫瘍の病理組織学的検討とそれに基づく病理組織アトラスの改定および作成
越永 従道	日本大学医学部 小児外科	小児腎腫瘍グループスタディにおける難治性腎腫瘍、特に両側腎腫瘍に対する標準的治療法の確立
佐々木美和	名古屋大学医学部附属病院 小児内科病棟	入院中に友達を亡くした子どもへのグリーフ・ケアの検討
金沢 英恵	国立成育医療研究センター 感覚器・形態外科部歯科	放射線治療の合併症から発育中の口腔顔面組織を防御する —放射線防御装置の設計と臨床応用—
吉野 美緒	日本医科大学付属病院 小児科	小児終末期医療における方針決定過程に関する研究
岩井 直子	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻小児医学講座	小児がん経験者への長期的支援に関する研究

(2) 海外留学助成

小児がん領域における若手オンコロジストの育成並びに当領域における研究のより一層の向上・発展を図ることを目的とし、海外の大学あるいは研究施設に留学し小児がん領域における基礎・臨床の研究を行う臨床研究者に対して奨学助成を行う「Pediatric Oncology Research Fellowship」(PORF 海外留学助成制度)を2001年度から実施しています。

本年度も西日本小児がんセミナー、中外製薬株式会社の協力を得て、公募を行い下記の通り助成いたしました。

■本年度助成

京都府立医科大学小児科 勝見 良樹
「Developing novel therapeutic strategies for pediatric tumors associated with loss of INI1/SMARCB1 including rhabdoid tumors」



4 総合支援施設運営事業

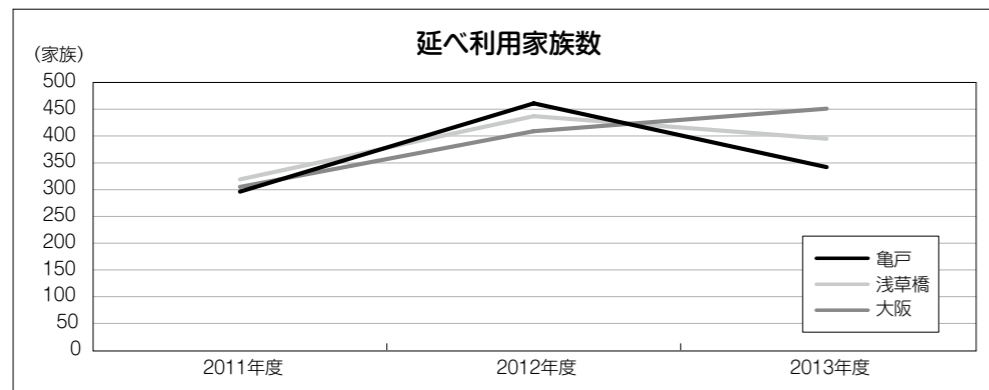
(1) アフラックペアレンツハウス

アフラックペアレンツハウスは小児がんなど難病の患児、家族のための日本で最初に建設された総合支援センターです。遠隔地から治療に来ている付き添い家族のための宿泊施設としてだけでなく、治療中、治療後の患児、家族が抱える様々問題に対して支援をしています。亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3施設は、いずれも開設以来順調に運営しています。運営費用については、アフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店（アソシエイツ）ほかの支援を得ています。尚、2013年6月末時点で、3棟合わせて利用者が延べ100,000人を超えました。



■宿泊利用状況

延べ利用家族数（2013年4月1日～2014年3月31日）
 亀戸（16室）／342家族
 浅草橋（17室）／395家族
 大阪（12室）／451家族



(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

1995年にオープンした「あかつきハウス」は、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設です。区立住宅「あかつき住宅」の1戸を借り受け、管理・運営しています。利用料は1部屋2,000円（宿泊代と維持管理費として）です。2013年4月1日より2014年3月31日までの間、延べ25家族の利用がありました。

②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の部屋風呂の利用は300円です。2013年4月1日より2014年3月31日までの間、延べ100家族の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

本年度は児童福祉法の一部改正を伴う「小児慢性特定疾患治療研究事業」の変更に向けての動きが活発になり、厚生労働省を中心とした関係機関にむけて小児がん患児家族の声を届けました。

当会からは①患児家族の状況に適した自己負担額の設定、②入院患者の食事療養費の軽減、③低所得者・重症者の医療費負担の軽減、④晩期合併症による高額な医療費の負担を抱える家族の負担軽減を訴えました。

この法改正の動きは小児がん患児家族だけの問題ではなく、他の小児難病の患者や成人の難病患者も大きく影響を受けることから、他の疾患の患者家族会と協力しながらの運動になりました。

がん対策においては第2期の地域がん対策が1年目を迎えました。東京都や大阪府をはじめとするいくつかの自治体では、がん対策協議会委員に当会の役員が選出され、地域でのがん対策に患児家族の声が反映されやすくなるなど、昨年度からの働きかけが少しずつ実り始めています。



厚生労働大臣との面会

年月日	主な内容
2013. 5.22	拠点病院中核機能病院に関する要望書提出
10.10	陽子線治療保険収載に関する要望書提出 (他の小児がん家族の会や経験者の会との連名)
10.27	難病対策意見交換会参加
11.14	小児慢性特定疾患治療研究事業に関する要望書提出
11.15	難病対策に関する要望書提出 (特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会との連名)
12. 2	難病対策・小児慢性特定疾患対策の法制化を求める緊急院内集会へ参加 主催：一般社団法人日本難病・疾病団体協議会、認定特定非営利活動法人難病の子ども全国支援ネットワーク
2014. 2.18	難病法・小慢改正法の早期成立を求める院内集会へ参加 主催：一般社団法人日本難病・疾病団体協議会、認定特定非営利活動法人難病の子ども全国支援ネットワーク

※本年度は上記の他に「難病の子ども全国支援ネットワーク」が立ち上げたワーキンググループに参加し、厚生労働省や国会議員に対する対応の協議を行い、また自由民主党、民主党、公明党、共産党のヒアリングにも参加し意見を述べるなどの活動を行いました。



6 支部活動

当会には全国に21の支部があります(2014年3月31日現在)。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	長野	病後若年者の就労についての学習会(講話と懇談会)
	静岡	花見交流会、ポルシェジャパン 小児がん患児試乗体験
5月	宮城	「小児がん経験者就労問題」講演会
	関東	交流会(千葉)
	福井	のぞみ福井定例総会2013～病気の子どもと家族の心に届く支援を目指して～
6月	九州北	第38回九州北支部交流会「小児がん拠点病院について」「小児がんの外科治療について」「小児がんの長期にわたる問題」
	北海道	はるにれの会(子どもを亡くした親の会)
	新潟	あおぞらの会(子どもを亡くした親の会)
	富山	シンポジウム(支部総会)・交流会「子どもが病気になった時」～小児がんの今とこれから～
	静岡	子どもを亡くした親の交流会
	関西	のぞみトークきんき2013「現在の小児がん治療の最新の状況について～10年前、20年前に比べて、また世界と比べて～」
	愛媛	野外定例BBQ
7月	九州北	第39回九州北支部交流会「小児がん経験者の晩期合併症とQOL」「小児がんを共有し心配や悩みを支え合う仲間について」
	北海道	おしゃべりCafé & 講演会
	宮城	家族語らいの会
	新潟	支部総会
	福井	福井県難病連事業ピアカウンセリング交流会(嶺南地区)
	東海	虹の会(子どもを亡くした親の会)
	関西	夏休みお楽しみ企画「日本赤十字社近畿ブロック血液センター」「ヤクルト工場」見学
	香川	支部総会・映画上映会
8月	鹿児島・宮崎	講演会&「風のかたち」上映会
	福島	講演会「がんの子どものトータルケア」&交流会
	静岡	子どもを亡くした親の交流会&BBQ大会
	岡山	交流会
	香川	交流会
	九州西	小児がん経験者・家族との交流キャンプ
9月	鹿児島・宮崎	脳腫瘍患者と家族のためのセミナー&交流会
	宮城	そらの会(子どもを亡くした母親の会)、小児がん経験者の会
	関東	交流会(東京)
10月	富山	のぞみ北陸小児がん交流会 in 金沢
	福井	10周年記念講演会
	鹿児島・宮崎	10周年記念講演会
	関東	交流会(埼玉)
10月	静岡	静岡県東部健康福祉センター共催交流会
	香川	交流会
	鹿児島・宮崎	鹿児島大学病院内ボランティア交流会

開催月	支部	内 容
11月	北海道	はるにれの会(子どもを亡くした親の会)
	新潟	あおぞらの会(子どもを亡くした親の会)
	宮城	いも煮会
	長野	支部総会
	福井	ピアサポートカフェ(坂井・あわら地区)
	岡山 広島 香川 愛媛 高知	第1回中国四国支部合同交流会
1月	宮城	ピアカウンセリング研修会
	福井	福井県難病連事業 教育相談・ピアカウンセリング(福井市)
	広島	ハート&ハート(治療中・治療終了後の子どもの親の交流会)
	九州北	第40回九州北支部交流会「小児がんって何?～がんになった子どもたちの笑顔のためにできること～」 「小児がんの経験を分かち合える、患児家族のための支援活動」
2月	北海道	そらぶちキッズ冬キャンプ
	静岡	静岡県東部健康福祉センター共催講演会(ピアカウンセリング)
	関西	近畿小児がん研究会公開シンポジウム「小児がんの長期フォローアップの今後の課題」「緩和ケアにおける“看取り”」
3月	高知	高知小児がんフォーラム「みんなで考えよう!!小児がんの子どもたちのこと」
	福島	お子様を亡くしたご家族の会
	関東	講演会(神奈川)「小児がんの家族、子どもを亡くした親への精神的サポート」
	富山	虹のかけはし(子どもを亡くした家族の交流会)
	福井	ピアサポートカフェ(丹南地区)
	静岡	子どもを亡くした親の交流会
	東海	三重大講演会・相談会「特別支援教育の実際～長期入院中の子どもたちに学校の空気を!～」
愛媛	支部会「小児がん経験者の社会的自立を考える」、意見交換会、相談会	

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

支部活動の風景



(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に、2013年6月9日、および10月19日から20日の2回にわたり支部連絡会を開催しました。本年度は、当会の運営に関する情報共有、およびピアサポーター研修、国のがん対策に対する意見交換や支部活動を始めた当会の事業に関するディスカッション等を実施しました。この連絡会は、「長期療養の子どもたちとご家族」の支援に取り組む武田薬品工業株式会社より助成いただきました。



支部連絡会



7 広報・啓発・募金活動 等

第18回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

第55回日本小児血液・がん学会学術集会、第11回日本小児がん看護学会のご協力を得て、ヒルトン福岡シーホーク（福岡県福岡市）において、第18回がんの子どもを守る会公開シンポジウムを下記の通り開催いたしました。

後援：厚生労働省、福岡県、福岡市、公益社団法人日本小児科学会、特定非営利活動法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■合同シンポジウム「教えて！小児がんの最新治療」

日 時：2013年12月1日（日）9：00～11：30

座 長：田口智章先生（第55回日本小児血液・がん学会会長／九州大学小児外科）

- テ ー マ：1. 免疫療法 橋井佳子先生（大阪大学医学系研究科小児科）
2. ハプロ移植 菊田敦先生（福島県立医科大学小児科）
3. 131I-MIBG アイソトープ内照射療法 萱野大樹先生（金沢大学付属病院核医学診療科）
4. 陽子線治療 櫻井英幸先生（筑波大学放射線腫瘍科）
5. 学会サマライズ 田口智章先生（第55回日本小児血液・がん学会会長／九州大学小児外科）

参 加 者：約400名

■ワークショップ「きょうだいについて語ろうーガイドライン作成に向けてー」

日 時：2013年12月1日（日）14：20～16：20

座 長：別所文雄先生（日本医療科学大学保健医療学部）

小澤美和先生（聖路加国際病院小児科）

- シンポジスト：1. 小児科医の立場から：小澤美和先生
2. 小児がん経験者の立場から：大里沙織氏
3. 小児がんの子どもをもつ親の立場から：西野美保子氏
4. 小児がん経験者のきょうだいの立場から：菅生優実氏
5. 小児がんできょうだいを亡くしたきょうだいの立場から：石橋優紀氏

参 加 者：約170名

- このワークショップは特定非営利活動法人モバイル・コミュニケーションファンドの「2013年度ドコモ市民活動団体への助成金」により開催いたしました。

■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1998年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。全国から寄せられた48作品を展示し、3日間で998名の方々にご来場いただきました。紙いっばいに表現された子どもたちの豊かな心模様や添えられたメッセージに感銘を受けたとの声をたくさんいただき、啓発活動としての大きな成果を得ることができました。

- この絵画展は公益財団法人 JKA オートレースの補助を受けて開催しました。

■チャリティマラソン&ウォーキング

日 時：2013年12月1日（日）早朝（コース：シーサイドももちの海沿いコース）

特別参加：小鴨由水氏

一般及び医療関係者など合わせて約70名の参加がありました。

■チャリティ階段昇り

日 時：2013年12月1日（日）11：00～12：00

場 所：ヒルトン福岡シーホーク非常階段 636段

一般及び医療関係者など合わせて約60名の参加がありました。

ブース出展

小児がんの子どもたちへの支援を目的にした各種チャリティーイベント会場や小児がん関連の会合の会場にて、来場された方々に、小児がんの現状や当会の活動等への周知活動や募金活動を実施しました。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使用される世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ7,753個、ストラップ3,935個、スワロフスキー付ピンバッジ350個のご支援をいただきました。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ



有志による啓発活動



ブース展示

常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。本年度は40か所に設置のご協力をいただきました。

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国25か所に設置していただいております。本年度は新規で6か所設置いただきました。



常設募金箱

支援自動販売機 ▶





8 国際活動

国際小児がん親の会連盟 (ICCCPO) への参加と協力

■ICCCPO(The International Confederation of Childhood Cancer Parent Organisations)
年次総会への参加
 2013年9月25日から28日に香港にてSIOP(国際小児がん学会)と同時に開催された第20回ICCCPO年次総会に、理事長、事務局長、支部幹事(親)1名および小児がん経験者3名の計6名が参加しました。小児がん経験者の参加者は公募の上決定いたしました。
 なお、ICCCPO全体の加盟国は2013年度年次総会にて88カ国171団体となりました。

PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

発展途上国等のICCCPO年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に500ユーロの寄付を行いました。

国際小児がんの日の活動

2月15日は「国際小児がんの日」です。国際小児がん親の会連盟(ICCCPO:The International Confederation of Childhood Cancer Parent Organizations)と国際小児がん学会(SIOP:The International Society of Pediatric Oncology)は、主に途上国での小児がんの早期発見を促すためのキャンペーンを世界に向けて一斉に展開しており、当会でも様々な活動をいたしました。

国際小児がんの日キャンペーン開催 (2014年2月1日~3月31日)

1) 啓発カードの配布
 小児がんのことを広く知っていただくために啓発カードを作成しました。約36,000枚を配布いたしました。



2) オリジナルTシャツの頒布

キャンペーンオリジナルTシャツを制作し、寄付金額に応じて頒布いたしました。
 合計約900枚のご協力を得ることができました。



3) オリジナルポケットティッシュの配布

オリジナルポケットティッシュを20,000個制作し、啓発活動に活用しました。



オリジナルポケットティッシュ

■キャンペーン関連活動

〈街頭活動等〉

本部・大阪事務所及び全国の支部による街頭啓発活動等を行い、啓発カードとオリジナルポケットティッシュ配布の他、募金活動やイベントを実施いたしました。支部での活動は、北海道、宮城、福島、関東、新潟、富山、福井、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、鹿児島・宮崎の18支部で実施され、各地域のメディアでも取り上げられました。

活動風景



〈共催イベント〉

「国際小児がんデーの集い」を三陽メディアフラワーミュージアム(千葉県)にてNPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズと共催し、参加者全員で啓発カードをつけた1,000個の赤い風船を飛ばしました。



キャンペーンの様子はスタッフブログでもご覧いただけます。
<http://blog.canpan.info/nozomi/>

■企業等のご支援

キャンペーンに伴い、多数の企業様、個人様からのご支援をいただくことができました。

● 明治安田生命保険相互会社
 営業人事部の皆様によるキャンペーンオリジナルTシャツ着用の本社啓発活動



● 第一生命保険株式会社
 コールセンター統括部を中心に、大阪と福岡のコールセンターの職員を対象に啓発活動(東京、札幌は継続中)





9 ボランティアコーディネート・研修会

(1) 遊びと学習のボランティアたんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」とは、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児科病棟にボランティアを週1回派遣し、入院児を対象に遊びや学習支援活動を行っています。

本年度は、小児科プレイルームでの遊びの支援が主な活動でした。活動を行う上で必要なボランティアメンバー間のミーティングを6回（隔月）、外部から講師を招いて研修会を6月21日と2月21日の年2回開催し、活動報告及び連絡ツールとして「たんぽぽ新聞」を4回発行しました。また、同院のボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI」の調整会議及び懇親会にも参加しました。

(2) ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、東京本部と大阪事務所で延べ410名（自宅での活動を除く）からボランティア協力をいただきました。

また、当会にボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修会を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。

10 調査研究協力

■調査研究委託

2013年度の当会会員を対象にした調査研究の申請は4件あり、調査研究委員会にて審議した結果、被調査者の協力はいたしませんでした。

■研究協力

本年度は下記研究に携わりました。

研究名称	協力内容
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生 埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科	実行委員会委員
「がん診療におけるチャイルドサポート」 (厚生労働科学研究費がん臨床研究事業：小澤班) 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科	共同研究者
「がん対策推進基本計画とがん診療連携拠点病院の小児がん診療体制への適応に関する研究」 (厚生労働科学研究費補助金第3次がん総合戦略研究事業) 原 純一 大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科	研究協力

11 2013年度年次大会開催

2013年6月9日、飯田橋レインボービル（東京都新宿区）にて年次大会を開催しました。

全体会	分科会
理事長挨拶 活動報告 シンポジウム 「みんなで考えよう小児がん医療・療養環境のこれから ～切れめない支援を目指して～」 講演 「小児慢性特定疾患研究事業が何故必要か？ Transition 問題を含めて」 五十嵐 隆先生（独）国立成育医療研究センター総長 「親の会として小児慢性特定疾患治療研究事業に望むこと」 小林 信秋 氏（特定非営利活動法人難病の子ども支援全国ネットワーク専務理事） 「難病対策の経緯と今後の方針 —患者家族会として望むこと—」 水谷 幸司 氏（一般社団法人日本難病・疾病団体協議会事務局長） グループディスカッション	1 個別医療相談 2 子どもを亡くした両親のために 3 小児がん経験者 4 きょうだい

12 特別功労賞表彰式

2013年10月19日に設立45周年を記念し、当会の設立にかかわり長年にわたり当会の活動に多大な貢献をされた2名に対し、特別功労賞を授与いたしました。

受賞者：岩田 敬治氏（元理事長／現最高相談役）
西村 昂三先生（現顧問）





寄付・募金者一覧

(2013年4月1日～2014年3月31日)

13 企業・団体からのご協力 (敬称略・順不同)

物品寄付

株式会社ニッセン、株式会社大和証券グループ本社、子供地球基金、株式会社スタイリングライフ・ホールディングス プラザスタイルカンパニー、西洋フード・コンパスグループ株式会社、一般社団法人日本児童家庭文芸家協会、一般社団法人霞会館、株式会社ガイア、東京中央南ライオンズクラブ、和光堂、コーマンジャパン株式会社、MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN、第一生命労働組合、協和発酵キリン株式会社、森永乳業株式会社、セカンドハーベスト・ジャパン、ネクスト・ウェイ株式会社、東京キリンビバレッジサービス労働組合、学校法人 天理大学天理小学校、吉田二葉屋、株式会社共同通信社情報企画本部 フォトセンター、アフラック広報部、アフラック近畿総合支社、アフラック佐賀支社、アフラック岡山支社、アフラック保険サービス株式会社、有限会社フロムジャパン、株式会社第一総合企画、有限会社ユーサン、国際保険株式会社、株式会社トータル保険サービス 他

ご招待

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)、認定特定非営利活動法人 朴の会、エーザイ株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、株式会社オリエンタルランド、一般社団法人日本メイスン財団、柏レイソル、東宝株式会社、毎日新聞社、川畠成道音楽事務所 他

募金活動他ボランティア活動等

明治安田生命保険相互会社 (営業人事部)、ライフテクノロジーズジャパン株式会社、吉田デザイン事務所 他

～その他支部宛てにもたくさんの方の企業・団体さまからご支援いただきました～

寄付者一覧

※敬称略

AGC マイクロガラス株式会社	池田 敏子	岩本 崇	落合 仁
AIG 富士生命保険株式会社	池田 春子	岩本 浩久	小野 英恵
CBC 株式会社	池田 久徳	岩本 雅也	小野 喜代人
ECC ジュニア笠間三丁目教室	池羽 啓次	岩本 より子	小野 智久
Harvey Paul A.S.	池邊 恵子	インターナショナル・アライアンス 株式会社	小野 裕也
JFE 商事株式会社	石井 隆	宇井 節子	おのうえこどもクリニック
JFE スチール株式会社	石上 久美	上田 廣	海田 由美子
JX ホールディングス株式会社	石川 孝成	上原 香理	花王株式会社
MSD 株式会社	石川 徳光	植村 敏子	香川 尚己
MSY 株式会社	石川 敏之	ウェルズ・ファーゴ銀行 東京支店	香川大学医学部付属病院
NPO 法人 酒は未来を救う会	石橋 かず代	臼倉 久代	垣水 孝一
NPO 法人 目黒ユネスコ協会	石橋 弘子	内田 裕之	かけはし信託愛の基金
NPO 法人 ゴールドリボン・ネットワーク	石原 節子	内田 道治	影山 光太郎
TRY Jazz Music Office	石原 貴泰	梅田 周作	笠井 功治
USHIO	和泉 智乃	うめもこどもクリニック 梅本 正和	笠井 千晴
Wing Y's	磯部 直美	浦野 正敬	笠原 秀幸
Wonderful Joke	井田 正美	江頭 邦男	花山院 弘匡
アイエヌジーバンク エヌ・ヴィ東京支店	市川 瑞穂	榎本 武	片山 建二
アメリカンファミリー生命保険会社	市川 芳徳	柄本 昌之	勝瀬 求
相川 勝	一木 恵子	遠藤 明	桂川 尚司
愛知製鋼株式会社	市野 祐子	遠藤 春義	加藤 明美
相原 和子	一瀬 すみ	近江 恵子	加藤 仁義
相本 晃一	市橋 陽子	大浦 幸子	加藤 友和
青木 節子	一般財団法人 医療情報健康財団	大江 晶子	加藤 廣久
青木 千賀	一般財団法人 凸版印刷三幸会	大江 登美子	加藤 美奈子
青木 豊	一般財団法人 日本メイスン財団	大木 綱雄	加藤 祐介
青木 嘉仁	一般財団法人 緑風会	大久保 一恵	門田 かず子
青沼 さくら	一般社団法人 信託協会	大久保 照子	金山 直司
青柳 亜季	一般社団法人 全国銀行協会	大久保 俊樹	金子 武行
赤尾 千波	一般社団法人 日本 CL 学会	大久保 史子	金子 道夫
赤城乳業株式会社	一般社団法人 日本ガス協会	大蔵 隆彦	兼松株式会社
秋月 昭典	一般社団法人 日本建設業連合会	大澤 加名子	株式会社 アコーセラミック
秋山 秀中	一般社団法人 不動産協会	大島 日和	株式会社 荒井商店
秋山 由美子	伊藤 亜希子	大島 泰子	株式会社 一の宮カントリー倶楽部
浅野 通直	伊藤 英子	大須賀 ひさ子	株式会社 梅原洋紙店
アサヒグループホールディングス株式会社	伊藤 玲子	太田 為治	株式会社 キャンパスサポート西南
朝日信用金庫	伊藤忠商事株式会社	太田 浩史	株式会社 草むしり
浅見 恵子	稲田 浩子	大谷 文一	株式会社 三平商会
浅見 美紀	稲畑産業株式会社	大津 真由美	株式会社 資生堂
足立 綾	井上 将夫	大西 省三	株式会社 高島屋
安達 三富	井上 雅美	大橋 孝次	株式会社 デンソー
熱田 裕	井上 康久	大原小児がん基金	株式会社 トップコーポレーション
虻川 多嘉子	猪熊 治	大引 啓次	株式会社 ニッセン
阿部 妃代	いのちのことば社	大瀬 幸子	株式会社 北海道パークゴルフコンサルタント
阿部 幸生	伊野波 盛郁	大山 きよ美	株式会社 悠香
阿部 陽子	伊野波 盛俊	岡阪 公美	株式会社 Agent
網干 新吾	今井 正	岡崎 辰也	株式会社 JKS
アポットジャパン株式会社	今泉 英明	岡田 京子	株式会社 S・S・I
新井 孝史	今村 紘子	岡田 洋子	株式会社 アトランティクス
新井 正男	井村 律子	岡田 陽子	株式会社 伊予鉄高島屋
荒川 トモ子	岩池 昌	岡野 まゆか	株式会社 エイティー
荒木 治子	岩国の明るい未来を創る会 弥生会	岡部 徳久	株式会社 オフィス S・I・C
安井 雄三	岩越 祥晃	岡本 武	株式会社 クボタ
安斎 紀	岩崎 明子	岡本 光代	株式会社 神戸製鋼所
安藤 一美	岩崎 淳子	小川 貴弘	株式会社 サイバーエイブ
飯田 雅史	岩崎 弘恭	奥野 達也	株式会社 サンボウ大理石村・ロックハート城
飯塚 敦夫	岩瀬 孝志	尾崎 亜矢子	株式会社 シミズ・ビルライフケア関西
五百川 麻子	岩田 吉郎	小澤 綾子	株式会社 タンクライフ・ホールディングス・フタバビルカビ
五十嵐 千年	岩田 怜旺	小澤 未央	株式会社 高橋組
池田 小霧	岩谷産業株式会社	押淵 玲子	株式会社 ティ・ワン マリブ事業部
池田 祥子	岩淵 雅俊	小田切 喜一	株式会社 なゆた



株式会社 日本製鋼所	小島 昌子	篠原 慶子	竹並 俊雄
株式会社 ビーエル	小島 幸典	渋谷 美恵子	竹之内 貴代子
株式会社 ビーライン	小島自動車商会	渋谷 陽子	田島 正美
株式会社 日立ハイテクノロジーズ	小杉 崇文	島 治伸	田尻 健
株式会社 プラスワン	小杉 範泰	島田 健司	田代 美知
株式会社 ポイント	小玉 剛	島野 孝仁	田中 久美子
株式会社 ヤクルト本社	後藤 雅	清水 三郎	田中 幸太郎
株式会社 ユイットワークス	小橋 香織	清水 康子「ひとつ」の会	田中 誠一
株式会社 淀川製鋼所	小林 幹紘	志村 朱美	田中 徹
鴨下 叔弘	小林 正夫	志村 節子	棚橋 健美
香山 千歳	小林 登志子	社団法人 生命保険協会	谷 健次郎
軽部 裕美子	小林 道夫	執印 優莉亜	谷 典子
河 敬世	小原沢 則之	白井松新薬株式会社	谷井 晃子
川口 弘二	小松 園実	白男川 實文	谷口 整一
河田 誠也	駒村 幸雄	白神 洋子	谷本 昌善
川田 富士正	小宮 毅	白土 義男	谷山 健太郎
河内 宏太	込山 雅人	眞尾 貴年	玉川 京子
川名 義矩	小山 和久	新海 アサ子	玉木 美晴
川村 聖一	ザ・レジェンド・チャリティブ	新谷 アサ子	玉置 陽介
川村 尚久	ロアマトーナメント実行委員会	新日鐵住金株式会社	田山 さきこ
川本 良枝	犀川 太	菅野 マリエ	地域生活支援株式会社
神崎 孝文	財団法人 厚生会	菅原 朋子	千葉 浩治 様
神田 陽子	齊藤 茜	杉本 束	中外製薬株式会社
岸田 恭二	齊藤 孝	杉本 徹	中外製薬労働組合 ぼけっと基金
貴嶋 淳二	齋藤 聡	杉本 侑子	中道 智子
喜多 幸之助	齋藤 順子	杉本 洋一	張 光陽
喜田 浩子	齋藤 節子	菅生 京子	蝶名林 正三
北島 夏子	齊藤 典代	鈴木 暁斗	蝶理株式会社
北原 義明	齊藤 秀子	鈴木 亜津子	築地7丁目町会婦人部
北村 典子	齋藤 百合子	鈴木 克彦	辻 青空
キッコーマン株式会社	佐伯 洋俊	鈴木 京子	辻 晴久
木下 健	酒井 あゆみ	鈴木 淳子	辻川 圭乃
木下 興	酒井 信夫	鈴木 孝俊	辻田 晋作
木下 成顕	坂上 和子	鈴木 千穂	辻林 温子
来海 秀次郎	坂口 勇太	鈴木 万里子	辻本 豪三
木村 守	坂田 年	鈴木 陽子	津田 貴子
木村 雅子	坂詰 松美	須田 美貴子	津田 留美
きもべつ喜らめきの郷	酒徳 浩之	須藤 壮太郎	土田 恭平
九州大学病院	阪本 哲男	住江 愛子	土田 昌宏
京都府丹後保健所	坂本 まゆみ	住友商事株式会社	妻島 毅史
協和発酵キリン株式会社	崎山 たまも	諏訪二葉高校同窓会 東京支部	鶴澤 浩幸
桐谷 茂希	櫻井 祐記	西部 雅	弦間 友紀
金崎 龍一	世川 泰弘	聖路加国際病院ボランティアグループ	手納 朋子
楠井 晶	佐々木 伸枝	セントバルトリクスファウンデーション	寺田 武弘
工藤 清美	笹沼 泰博	双日株式会社	電気事業連合会
久保	佐藤 穂恵	曾我 高臣	土肥 孝治
久保 スミ子	佐藤 貴司	大同特殊鋼株式会社	東京海上日動あんしん生命保険株式会社
久保田 鈴美	佐藤 貴虎	大日本住友製薬株式会社	東京教区仏教婦人会連盟
熊谷 則一	佐藤 智信	太陽生命保険株式会社	東京ワンハンドレッドライオンズクラブ
熊倉 直俊	佐藤 直美	高木 えり絵	東部緑地株式会社ザ・トレジャーガーデン林
隈崎 哲也	佐藤 浩	高澤 仁司	東洋英和女学院小学部母の会
熊本歯科衛生士専門学校	佐藤 稔	高嶋 利彦	遠渡 沙緒理
栗原 恭子	佐藤 佑衣子	高島 雅子	土岐 憲二
栗山 宣夫	佐藤 陽子	高瀬 一博	常盤 晋吾
クルメユニバーシティチルドレンズアート事務局	佐藤 義雄	高梨 剛	徳田 ゆかり
クレアゴルフフィールド	佐藤 礼子	高野 妙子	特定非営利活動法人こども医療ネットワーク
黒岩 立子	佐野 ゆかり	高野 輝雄	徳留 トモ子
黒川 征治	サノフィ株式会社	高橋 晶子	徳永 幸一
黒木 智	佐本 留美	高橋 和子	戸田 勢津子
黒羽 薫	佐用 敏彦	高橋 圭人	土手 多喜子
げんき保育園	澤田 敦子	高橋 祥恵	利根コカ・コーラボトリング株式会社
小池 真規子	椎名 延年	高橋 英伸	殿畑 正生
古池 好	志方 千都子	高橋 正行	トビー工業株式会社
公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団	四方 佳子	高原 登代子	富田 基生
興和株式会社	七野 浩之	高宮 静男	富永 潤
珈琲茶館 紫陽花	室内 由香	宝田 知子	富張 喜代子
古賀 三貴	篠井 智恵子	田北 徹	友永 けい子
古賀 友紀	篠田 章	田口 一成	土門 廣子
コカ・コーラウエスト株式会社	篠田 幸子	田口 智章	富山福祉短期大学
古賀印刷株式会社	篠田 ミサ子	竹中 由佳	豊田 和子

豊田通商株式会社	橋本 里実	別所 文雄	村松 毅
鳥沢 竹彦	橋本 勇輝	ベルテックトレーディング株式会社	村本 君代
内藤 龍平	橋本 裕	蓬台 浩明	本川 和夫
永井 幸治	長谷川 伸布子	朴木 寛弥	本山 一夫
永井 誠	はたみや すずむ	星谷 哲夫	百川 リカ子
中浦 和子	八田 健男	細井 廣一	森岡 淳子
中川原 章	服部 祥子	細田 裕美	森川 ミキ子
長倉 幸枝	パナソニック株式会社	細谷 亮太	守口 久美子
中澤 弘美	花巻 信二	ほのぼのサロン	森下 宣子
中島 功博	羽田 紀男	堀江 綾子	もりの木こどもクリニック
中島 千丘	濱 克彦	堀川 哲男	柳沼 サダヨ
中島 久子	濱田 諭奈	堀本 千恵	矢通 有貴
中島 弘和	早川 晶	本間 信雄	柳澤 隆昭
長瀬産業株式会社	林 佳奈子	毎日新聞東京社会事業団	柳原 郁子
中田 政和	林 志郎	前川 育	矢野 潤
中根 淳子	林 富	前川 雅子	山内 嘉彦
中野 洋子	林 雅彦	前田 晃代	山岡 直子
中林 里花	林 隆二	前田 美穂	山口 あけみ
中原 宏樹	早野 由美	前中 栄子	山口 勝正
中間 初子	速水 節子	榎 富貴子	山口 陽子
中村 克彦	原 明慶	間島 隆文	山口 利子
中村 隆昭	原 純一	増田 勝治	山崎 貴子
中村 まゆみ	原澤 スミエ	樹本 晃宜	山崎 文之
中村 裕子	針生 久子	町田 しげ子	山下 公輔
中村 良樹	阪和興業株式会社	町田 淳	山下 桜
中村 美子	日裏 晶子	松井 秀文	山下 亨
仲本 千佳子	東島 明子	松浦 晋吾	やましろ小児科 山城 武夫
仲屋 雅仁	東山 裕徳	松川 誠司	山田 勝三
中山 順子	樋口 明子	松阪 直美	山田 幸子
中山 博美	ひなた鍼灸接骨院	松下 さよ子	山田 崇雄
成岡 千絵	檜山 英三	松田 信夫	山田 哲也
成澤 一浩	平井 博夫	松永 憲一郎	山田 律子
成田 幸子	平沢 一	松原 善明	山梨 秀雄
成田 隆澄	平澤 裕一	松本 敬子	山室 達夫
名和 久子	平野 敬一	松本 耕一	山本 章子
南部 昌弘	ファイザー株式会社	松本 千賀子	山本 暁彦
新村 昌弘	ファミリー・ラーマン	松本 稔弘	山本 圭子
ニコニコ鍼灸整骨院 上新庄院	深澤 重幸	松山 淳	山本 武
西尾 隆	吹田 健吾	間宮 規子	山本 知加子
西尻 幸嗣	福岡聖書キリスト教会	間宮 久晴	山本 信江
西田 正三	福澤 正洋	間宮 光江	山本 均
西田 澄夫	福田 京一	マルデ アズイフ	山本 博三
西田 知佳子	福田 晋	丸紅株式会社	山本 和加子
仁科 孝子	福田 努	三浦 厚子	有限会社 築地にっしん太助
西村 信一郎	福田 佳子	三浦 貞夫	有限会社 松田興業
西本 由美子	福地 誠一郎	三枝 友樹	有限会社 吉半
西山 正彦	福原 卓也	三方 正行	有限会社 アトリエ・デ・くつきいず
日新製鋼株式会社	福山 茂	三川 勝夫	有限会社 キャピタル
日鉄住金物産株式会社	藤井 佑介	三樹 良子	有限会社 三響会企画
二宮 和也	藤岡 三奈	水江 伸夫	有限会社 マキシム
日本コスプレ委員会	富士観保険サービス株式会社	水柿 多香子	有限会社 山川土地建物
日本製紙連合会	藤澤 義之	水巻 吉子	有限会社 友愛
日本生命保険相互会社	藤田 昶子	三井物産株式会社	有限責任事業組合チャイルドケア研究所
日本労働組合総連合会	藤田 敏美	光野 優	ユーズ株式会社
認定特定非営利活動法人 朴の会	藤田 尚登	三菱商事株式会社	ゆうた
認定特定非営利活動法人ファミリーハウス	藤田 美子	三菱電機株式会社	横瀬 兼二
野口 智子	富士電機株式会社	南 代志子	横浜冷凍株式会社
野澤 みどり	藤平 一雄	三松 督弘	横瀬 航平
野地 巴奈	藤本 たか子	宮澤 敦子	横山 茂
野島 尚恵	藤本 龍美	宮嶋 歯科医院	吉岡 延明
野田澤 郁子	藤山 聡太郎	宮田 淳子	吉岡 佑樹
ノバルティスファーマ株式会社	二井 立恵	宮田 衛	吉川 忠久
野村 信幸	文月会(会長 矢部 博)	宮の台幼稚園バザー委員会	吉川 紀男
野村 浩代	船崎 和夫	麦島 秀雄	吉崎 英樹
野本 滋彦	船水 龍	向田 仁美	吉田 賢史
はあとぼっぽ 河路 貴子	古川 裕務	牟田 謙一	吉田 康雄
ハーترینク	ブルデンシャル生命株式会社 富山支社	古屋 富士夫	吉羽 喜三郎
ハーレーダビッドソン ジャパン株式会社	古本 恵子	橋口 正子	義村 みつ
橋口 正子	古屋 富士夫	橋都 浩平	吉本 哲也
橋都 浩平	普通土学園 宗教委員会		吉本 ヤスタカ

米倉 邦子 米原 チドリ 米山 望 ライフテクノロジーズジャパン株式会社	ラッセル・インベストメント株式会社 立教新座中学校・高等学校セントポール会 レストラン ともえ ロート製薬株式会社 かるがも基金	若杉 和枝 若松 千佐子 和田 真由美 和田 禮子	ワタキューセイモア株式会社 渡辺 千香江 渡邊 直美 綿谷 崇史
---	---	------------------------------------	---

上記の他、アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、ヘアレンツハウス運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（7,565件）を通じて、ご支援をいただきました。

募金者一覧

AIG 富士生命保険株式会社 FPL アセットマネジメント株式会社 RINNA Shop ART USHIO おおはま おの歯科医院 株式会社 ハンスクラフト 株式会社 エイト 西萩勝手口ひまり屋 株式会社サンボウ 大石石村・ロックハート城 株式会社 デファイ 株式会社 プレミアバンク 株式会社 ライフクリエイイト 株式会社 保険オフィスさとう キャピタル・パートナーズ証券株式会社 吉祥寺 ひまり屋	近畿小児がん研究会会場 公益財団法人 がんの子どもを守る会 応援する会 佐藤 貴虎 小林食品 神戸フィルハーモニック 聖路加メサイア 第一生命保険株式会社 札幌コールセンター 第一生命保険株式会社 大阪コールセンター 第一生命労働組合 上野営業職支部 チャリティ倶楽部～ sakura 様 中田中央歯科医院 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 日本チャールス・リバー株式会社 日本生命保険相互会社 日本生命保険相互会社 北都王子営業部 日蓮宗 妙像寺	フィンランドのお話と音楽を聴く会 フォローウィンド株式会社 富士生命保険株式会社 北京 高棚店 明治安田生命保険相互会社 営業人事部 明治安田生命保険相互会社 東京本部営業室 明治安田生命保険相互会社 東船場営業所 明治安田生命保険相互会社 営業人事部 明治安田生命保険相互会社 四国東支部 労働組合 明治安田生命保険相互会社 滋賀支部 明治安田生命保険相互会社 大阪支社 明治安田生命保険相互会社 大坂北支社 明治安田生命保険相互会社 町田支社 明治安田生命保険相互会社 名古屋南支社 明治安田生命保険相互会社 淀川東営業所 明治安田生命保険相互会社労働組合 四国西支部	※敬称略
--	---	---	------

他、多数の方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

公益財団法人 がんの子どもを守る会 2013年度事業報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

2014年6月2日 発行

公益財団法人 がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL 03-5825-6311(代表)